

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

輝かしい歴史と伝統を持つ鳳高校は、生徒の高い向学心と教職員の情熱を礎に、普通科単位制高校の完成形として確固たる地位を築いた。我々のたゆまぬ努力は日々の教育実践のなかに現れている。しかし学校の真価は、単に数字のみで測られるものではない。十分な知識を吸収し、幅広い教養を身につけ、社会を生き抜くための力を高めていく。この全人的な教育こそ、我々鳳高校に与えられた使命である。

この使命を果たすべく、鳳高校が育てる生徒を次の5つとする。

『探求する人』 『挑戦する人』 『教養のある人』 『思いやりのある人』 『振り返りのできる人』

2 中期的目標

◎ 鳳高校は、『第一志望をかなえる鳳』、『進路実現100%をめざす鳳』を合言葉に、以下を本校の中期的目標とする。

1 前に踏み出す力を育て、生徒の第一志望をかなえる。

(1) 高い志を抱き、信念を持って果敢に挑戦する姿勢を育む。

(2) 普通科単位制の優位性を具現化するために、ガイダンス体制の一層の充実を図る。

※ 生徒の学校満足度「入学して満足」が100%をめざす。

2 社会を生き抜く力を育成する。

(1) 人に心を開き、思いやりをもって接することのできる生徒を育てる。

(2) 発信力、傾聴力を備えたコミュニケーション力を身につけさせる。

(3) 社会のルールや人との約束を守る規律性の大切さを教える。

※ 生徒の「自己管理能力は十分にある」が100%をめざす。

3 疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる。

(1) 十分な知識を基盤として、課題を探究する姿勢を育てる。

(2) 「授業アンケート」を分析し、教職員の授業力向上のための材料とする。

(3) 『学校経営推進費事業』により導入予定である短焦点プロジェクター等のICT機器を活用し、英語における四技能統合型授業をはじめとするアクティブ・ラーニングを推進する。

※ 生徒の「授業内容はよく理解できる」が100%をめざす。

4 広報活動を学校経営の重要戦略と位置づける。

(1) あらゆるチャンネルを活用して本校教育活動の情報発信を行う。

(2) 入試制度の変更をチャンスととらえ、中学生が本校の真の価値を理解して受験するよう、正確な情報の収集と提供を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>■志望動機</p> <p>○63期(単位制・前期入試の始まり)と64期は「学力」で選び、65期・66期・67期は「前期」である。ところが、68期～70期(現1年生)では再び「学力」が首位に戻った。「単位制だから」という生徒も一定層おり、後期に移行すると、今後増えるかもしれない。</p> <p>○「経済的理由で公立を選んだ」のが突出している09年度はまさにリーマンショックがあった年で、家計への危機意識が表れているのだろう。生徒のほうがより敏感である。翌々年の11年度からは私立の無償化が拡充され、専願率は急上昇した。最近5年間は50%前後であり変化がない。</p> <p>■入学満足度</p> <p>○保護者や教員が思っている生徒の満足度は9割を超えているのに対し、肝心の生徒では約8割ではあるが、3年で一番満足度が高くなっている。(1年:84% 2年:75% 3年:85%)2年の満足度の落ち込みを分析し、高める工夫が必要である。また、全体として約2割の生徒が「あまり満足していない」と答えている現状を認識し、どの部分で不満を抱いているのか把握する必要がある。</p> <p>○生徒の満足度の高いものをクロス集計で処理すると、「授業集中」とはかなり相関が高く、「わからないときは先生に聞く」とはあまり相関がない。「選択のための情報集中に積極的」「進路に必要な科目が選択できる」「学習環境が整っている」「部活動環境が整っている」とは、当然ながら相関が高い。</p> <p>■期別特性</p> <p>62期:学区改編の初年度。広報委員会始動。</p> <p>63期:単位制への改編初年度。1年次2年次は落ち着きなかったが、3年次には落ち着き、成果をあげた。</p> <p>64期:公立復帰が進み、まじめで謙虚。「いい生徒が入ってきた」だけではないが、進学実績はめざましかった。</p> <p>65期:授業集中も授業理解もできてないと自覚しているが、かなりの進学実績を挙げた。「大学後期入試までがんばらせた」という声が多い。</p> <p>66期:私立高校無償化で、公立特需がなくなった学年である。志望理由を「単</p>	<p>第1回 平成27年7月23日</p> <p>(1) 67期生(H27年度入試)の進路状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大を含め、「最後まで頑張る姿勢」を示し、よく健闘した。 ・本校から通いやすい和歌山大学に人気がある。観光学部があることも一因。 ・「〇〇大学××人合格」など実績をもっとアピールしてはどうか。 →「〇〇大学に何人合格させる」ということよりもむしろ、それぞれの生徒の第一志望を叶えることを重要視した進路実現100%が目標 →その思いをもっと前面に出して鳳の良さをアピールすべき。他校の進学実績と比較されて、鳳の思いが誤解されかねない。 <p>(2) 平成27年度及び平成28年度入学者選抜について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度:志願者600名を集め、人気を維持することができた。 ・平成28年度:前期から後期への移行、調査書の変更、アドミッションポリシー等、大幅な変更が多く、中学校も戸惑っている。保護者からも成績に関する質問が増えた。比べるものがないから不安だ。 ・各中学校がどのように評価しているのか情報が欲しい。 <p>(3) 平成27年度学校経営推進費獲得「フェニックス・プロジェクト」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府立高校のパイロット校としての役割があると思われる。 ・他校とも繋がりをもっていけば、もっと広がっていく。広めることを意識して推進して欲しい。 ・選挙権が18歳以上となり、高校でも主権者教育が必要になる。判断する根拠を自分で見つける、調べる姿勢を育てる教育が重要。 <p>第2回 平成27年11月20日</p> <p>(1) 授業見学について(初任の教諭の授業を中心に見学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声も大きくはっきりしていて、元気のある授業で良かった。 ・教員間で授業見学期間を設けて、積極的にお互い授業を見学し合うのはとてもよい取り組みである。 ・ICTを活用した授業については、教材を作成するのに時間と労力がかかる。作成した教材をストックするのが大切。ICTを活用しても、「話す」ことがきちんとできていないと、難しい。結局はコミュニケーション力が大切。 <p>(2) 2学期までの主な行事について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳳高祭等について 今年度から地域の住民も招待したが、外部(地域)との繋

<p>位制」としたものが 17%とピークであり、突出している。64 期・65 期という特徴的学年に比して、以前の鳳高校に戻った感がある。</p> <p>67期：進路実績は健闘した。自己肯定感が強く、学校への信頼感が比較的弱かった（自立していたとも言える）。</p> <p>68期（現3年生）：学校に対する満足感が近年で最も高い。現在センター試験を終え、すべての科目において平均点を上回っている等、進路実績にも期待が持てる。</p> <p>■携帯・スマホの使用</p> <p>○今年度、社会的にも様々な問題の要因となっているスマホの使用について、新たに1日の使用時間を問う項目を入れた。本校のピークは2～3時間（30%）であった。クロス集計では、使用時間が長い生徒ほど、自己管理能力が低いと感じていることが認められ、携帯・スマホへの依存を自覚しているという興味深い傾向が見られた。</p> <p>☆全体として、生徒・保護者・教員の意識が高評価でほぼ一致している項目は、鳳高校の「強み」として、積極的に評価し、さらなる高みをめざすとともに、外部へもアピールしていく必要がある。反面、生徒・保護者・教員の意識にずれがある項目については、丁寧に分析をし、保護者と連携を図りながら、生徒の学校生活に対する充実感を上げるような仕掛けを工夫するべきである。</p>	<p>がりを大切にすることは大事。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケアードストレート（＝事故現場を再現して見せて、交通ルールの大切さを学ばせる手法）を新たに実施。市役所や警察、地域とも連携して取り組んだのは良かった。 ・学校見学会をHPからネットで申し込む形にしたのは良かった。学校見学会の効果について、分析することも大切。 ・史跡探訪 単位制の特質を生かした効果的な授業として、継続して欲しい。 ・オーストラリア国際交流研修 生徒たちにとって非常に有意義である。グローバルな視点を養うためにもぜひ多くの生徒に参加してもらいたい。 <p>(3) 授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府教委の質問事項をベースに、生徒の記述欄を設けた鳳独自のスタイルのアンケートを実施しているのは、生徒の意見を取り入れるという意味において、とても良いと思う。このような鳳のよい所は、どんどん外に発信していくべき。 <p>第3回 平成28年2月16日</p> <p>(1) スピーチコンテスト見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常にすばらしい取り組みである。多くの人の前で話すことが大切な目的だと思う。できれば少しでも多くの観客を集める方が良い経験になる。3年生の時間のある生徒にも声をかけるのもいいのでは。 ・体育館に入っている生徒が、全員スリッパをそろえて座っていた。遅刻指導をきっちりやるなど、勉強だけでなく生活面で細かい指導をしているところはすばらしいと思った。 <p>(2) 「平成27年度学校教育計画・自己評価」「平成27年度学校自己診断・考察とまとめ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制が定着してきたことについては、守りに入ると制度疲労していく。どこかを壊して新しいことを考える必要があり、そのためには新しい発想が必要である。例えば、科目選択や進路指導のガイダンスに3年生を使うのも面白いのでは。 ・新しく鳳に転勤してきた教員がスムーズに鳳のシステムの中に入れていけるのはすばらしい。制度が確立されているからだと思う。安定しているからと守りに入らず、危機的なことも分析して考慮に入れている点もすばらしい。 ・スマホについてのアンケートは興味深い。スマホの使用時間と自宅学習時間の関係が必ずしも反比例しないという結果は、もはやスマホが便利な勉強道具の一つになっているようだ。次年度にはスマホをどう使っているか等、質問事項をよく考える必要がある。 ・「生」「LIVE」が大切なことを忘れてはいけない。だからこそ、鳳の対面型ガイダンスのような取り組みは大切である。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1. 前に踏み出す力を育て、生徒の第一志望をかなえる</p>	<p>(1) 生徒が高い志と信念を持って、進路実現に果敢に挑戦するよう導いていく。</p> <p>(2) 普通科単位制の要であるガイダンスが効果的に機能するよう絶えず工夫する。</p>	<p>ア・大学、専門学校、就職それぞれに応じた指導を行い、全員の希望を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安易に妥協せず、生徒が強い意思を持って進路の実現を果たすよう指導する。 ・幅広い進路選択が可能となるよう、センター試験の受験者の増加を図る。 ・難関大学であってもチャレンジする気概を育てる。 ・自学自習時間を日々欠かさず持つよう指導する。 <p>イ・生徒が単位制の趣旨をよく理解して最適な科目選択を行うよう、ガイダンスを効果的に展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路実現への道筋を生徒に考えさせる。そのために進路の資料・情報を自ら収集し咀嚼する姿勢を育てる。 ・専門家を招いた説明会、講演会等を提供することで、生徒のなかで進路のイメージを具体化させる。 	<p>ア・生徒の進路の実現100%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター試験受験者が増加する。(H26 228名) ・センター試験受験者の平均点が全教科科目で全国平均を上回る。(H26「数ⅡB」「生物」の2教科が全国平均に達せず) ・進路に関するホームルーム、各学年月1回以上。 ・生徒の平日の自学自習時間、全学年で3時間以上。 <p>イ・ガイダンスに係る生徒アンケートの肯定的回答が95%以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員によるガイダンス年間2回実施。 ・全教員による科目選択申請書点検。 ・ガイダンス(進路啓発)HR(含総合学習)1年次年間15時間、2年次年間10時間以上。 ・専門家等による進路に関する講演会、説明会等を複数回開催する。 	<p>ア・進路結果、現時点では未定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター試験受験者(自己採点参加者)196名。昨年度は9クラス規模で228名。受験割合(受験者/在籍者)は微減。(△) ・大学入試センターの正式な発表は2月のため、現時点の予想平均点との比較ではあるが、すべての教科科目において全国平均を上回っている。(◎) ・年間の進路関係HR=1年次16時間、2年次19時間、3年次10時間(◎) ・生徒の自学自習時間は、平日3時間以上3年63%(全学年23%)、休日6時間以上3年52%(全学年19%)で、昨年度とほぼ同じ。(○) ・ガイダンスのアンケート、「相談した結果はどうでしたか」、「ガイダンス面談は役に立ちましたか」の二項目について、1年生、2年生とも肯定的回答が95%。(◎) ・全教職員によるガイダンスを、6月に5日間、10月にも5日間実施。(◎) ・1・2年生全員対象の科目選択申請書の点検を10月に行い、生徒の進路選択を確実に把握した。(◎) ・「職業プロに聞く」や「大学の模擬授業」など、進路に関する説明会を14回、講演会を8回催した。(◎)
<p>2. 社会を生き抜く力を育成する</p>	<p>(1) 思いやりをもって人と接する生徒を育てる。</p> <p>(2) 発信力、傾聴力を備えたコミュニケーション力を身につけさせる。</p> <p>(3) 社会のルールや約束事を守ることの大切さを教える。</p> <p>(4) 安全で安心な学校をみんなでつくる。</p>	<p>ア・自治会活動、学校行事、部活動を通して</p> <ol style="list-style-type: none"> ①仲間と協働する力 ②困難を乗り越える精神力 ③チームを率いるリーダーシップ <p>を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの「集中と切り替え」を指導し、学習活動と部活動・学校行事の両立を図る。 <p>イ・『オーストラリア海外研修』、『スピーチコンテスト』を通して、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を育成する。</p> <p>ウ・挨拶、時間厳守、正しい服装、清掃を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の安全指導(とくに自転車指導)に取り組む。 <p>エ・スクールカウンセラーと教職員の情報交換を緊密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月一回教育相談委員会を開催し、課題を有する生徒に関する情報共有を図る。 ・増加傾向にある『発達障がい』への教職員の理解度を高める。 ・薬物乱用防止のための取り組みを継続する。 	<p>ア・校内活性化委員会を中心に、社会を生き抜く力を育成するための工夫を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率100%をめざす。 <p>イ・オーストラリア国際交流研修に参加する生徒15名以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチコンテストの観覧者数(府立高校英語教員、地元中学教員、PTA)の増加。 ・史跡探訪に参加する生徒15名以上。 <p>ウ・生活確立週間を年間3回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーチャイムデイの実施。 ・毎日の登下校時に安全指導を実施する。 ・自転車保険加入率の向上。 ・部活動生徒に対する一斉指導の実施。 <p>エ・スクールカウンセラーと教職員のケース会議を適宜開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいや精神的疾患など教育相談に関するテーマで研修を実施する。 ・薬物乱用防止教室を年2回実施する。 	<p>ア・部活動加入率87.7%で昨年度とほぼ同じ。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ代表者会議を適宜招集し、人間力の育成の機会とした。(○) <p>イ・オーストラリア国際交流研修(参加生徒15名・内1名はクラブの試合と重なり不参加)を例年通り実施した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生全員がやり遂げた『スピーチコンテスト』は、英語運用能力及びプレゼンテーション力の向上にきわめて有効であった。(◎) ・『スピーチコンテスト』を近隣の中学校、府立高校、PTAに宣伝し、観覧希望を募った。他校の英語教員(12名)が見学に来校した。(◎) ・史跡探訪(参加生徒15名)で、伊勢方面の地誌の実地学習を行った。(◎) ・生活確立週間を5月、9月、2月と年間3回実施し、基本的な生活習慣の徹底を図った。(○) ・登校時、下校時の安全確保のため、全職員で指導。(○) ・堺市、堺西署の協力を得て、自転車安全講習「スケアードストレート」を実施した。(◎) ・スクールカウンセラーと教職員のケース会議を年間14回開催した。(◎) ・大学より講師を迎え、教職員研修を実施した。①「子どもの貧困対策とSSWの役割」、②「セクシャルマイノリティとは? LGBTについて知ろう」(◎) ・薬物乱用防止教室を2回実施した。(○)

府立鳳高等学校

<p>3. 疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる</p>	<p>(1)十分な知識を基盤として、課題を探求する姿勢を育てる。</p> <p>(2)「授業アンケート」を分析し、教職員の授業力向上のための材料とする。</p>	<p>ア・十分な知識を基盤として、生徒自らが課題を発見し、解決のためのプロセスを探究する姿勢を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業、研究授業を通じて、教員間で効果的な授業法についての意見交換を行う。 教職員の力を結集して生徒の力を伸ばす工夫を実践する。 特に英語においては、本校が従来から実践している四技能の伸長を発展させるために、教育委員会主導の事業に積極的にエントリーし、他校の模範となる英語教育を展開する。 <p>イ・生徒による授業アンケート(年2回)結果を分析し、授業改善に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者に対し、年2回の公開授業への積極的な参加をもとめる。 教科を超えた授業見学を通して、若手教員の授業力向上を図る。 	<p>ア・半期認定科目30科目、全体として140科目の設置。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開研究授業を年間5回実施。 実用英語技能検定2級合格者の増加。(H263年生6名) 本校が従来から実践している四技能を伸ばす英語授業のノウハウを、希望する府立高校に提供する。 <p>イ・授業アンケートの結果を教科ごとに集約し、授業力向上に必ずつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業参加の保護者数が年間150名以上。 初担任、新任教職員の情報交換会を年に10回以上実施する。 昨年度よりスタートした、「本校が2校目となる教職員の会」も継続する。 	<p>ア・半期認定科目39科目を含め全147科目を設置した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開研究授業は11月に2週間、経験の少ない教員を中心に実施し、成果を得た。(◎) 実用英語技能検定2級合格4名(△) 「平成27年度学校経営推進費」を獲得し、アクティブ・ラーニング推進のための「フェニックスプロジェクト」を始動させた。(◎) <p>イ・鳳独自方式による授業アンケートを年2回実施。2回目については現在フィードバック中。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者向けの公開授業を5月、10月に実施。158名(昨年度134名)の保護者が参加。(◎) 新任教員、ならびに本校が2校目となる教員の情報交換会を定期的に実施。(◎)
<p>4. 広報活動を学校経営の重要戦略と位置づける</p>	<p>(1)あらゆるチャンネルを通して本校教育活動の情報発信を行う。</p> <p>(2)入試制度の変更をチャンスととらえ、中学生が本校の真の価値を理解して受験するよう正確な情報の収集と提供を行う。</p>	<p>ア・後期入試への移行はチャンスである。単位制を前面に出した効果的な広報活動を全校あげて展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> HP委員会が中心となってHPのきめ細かい更新を行う。 学校協議会の意見・提言を受けて、学校運営の方向性を調整する。 <p>イ・全教職員で在校生出身中学を訪問し、情報交換を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育産業との意見交換を適宜おこなう。 	<p>ア・全教職員で中学校を訪問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校HPを月に2回以上更新する。 学校協議会を年間3回開催する。 <p>イ・参加要請のある学校説明会(中学校主催、教育産業主催)にはすべて参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校見学会を年間3回開催する。 中学生、保護者の個別の学校訪問の要望にもきめ細かく対応する。 	<p>ア・6月下旬から7月にかけて、全教職員で近隣学区の全中学校を訪問した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> HP委員会がきめ細かい更新(130回、1月現在)を行い、分掌、学年、部活動等の情報を常時発信している。(◎) 学校協議会を3回実施(第3回は2月16日の予定)し、学校運営への貴重な提言を得た。(○) <p>イ・第1回説明会に284名(前年より128名増)、第2回説明会に236名(同17名増)の中学生が参加。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 土曜日等を利用して中学生・保護者の個別見学に応じた。(○) 塾等が主催する説明会には全て参加した。(○)